

高松空港の計器着陸装置の高カテゴリー化 に向けた調査の実施について

1 高カテゴリー化に向けた検討の調査費の予算化について

令和7年4月1日に国土交通省が公表した令和7年度の空港整備関係予算において、高松空港（高松市香南町）は、計器着陸装置の高カテゴリー化に向けた検討調査費を含め、約19億円の予算が配分されました。

2 高カテゴリー化の必要性と、国への要望について

降雨や濃霧の影響を受けやすい高台にある高松空港が、その機能を十分に発揮し、本県の産業や観光の振興などのために期待される役割を果たすためには、視界不良による欠航や条件付き運航を減らし、運航の定時性や安定性、信頼性を確保していく必要があります。

県では、視界不良時にも自動操縦で安全に着陸することができるよう、計器着陸装置（ILS: Instrument Landing System）の高カテゴリー化（カテゴリーⅢ）の早期導入整備を国に要望※しているところです。

※ 現在、高松空港に整備されているのは、「カテゴリーⅠ」であり、高松空港着陸時に、地上60メートルで、滑走路や灯火が見えなければ着陸をやり直す条件が設けられております。

香川県は、着陸ぎりぎりまで、濃霧にて滑走路などが見えなくても、自動操縦によって安全に着陸できる「カテゴリーⅢ」の早期導入を国に要望しております。

3 今後行われる国の調査の内容について

計器着陸装置の高カテゴリー化に係る施設の整備の内容やその費用について、詳細な検討を行うものです。

なお、計器着陸装置の高カテゴリー化により、濃霧発生時でも、着陸が可能となることから、過去の運航実績において、濃霧の影響により、欠航や代替空港へと振替となった便数や、条件付き運航※の便数が、改善されることによる効果等の調査が行われます。

※ 「条件付き運航」とは、運航することは決定しているものの、到着地の天候などの影響で目的地に着陸することができず出発空港に引き返すことや、他の空港へ着陸する可能性があるとして判断した便のことです。

4 今後の予定について

この調査の結果を踏まえ、国において新規事業採択の可否が判断されることから、香川県としては、引き続き国の調査に協力することで、計器着陸装置の高カテゴリー化の早期実現を目指してまいります。

以 上